

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(1ユニット 2階)

事業所番号	2779300355		
法人名	社会福祉法人 ラポール会		
事業所名	くみのき苑グループホーム		
所在地	大阪狭山市東葉蒔木4丁目1160-2		
自己評価作成日	令和2年4月22日	評価結果市町村受理日	令和2年8月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和2年7月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症の人であっても住み慣れた地域で役割を担って生き活きた日々を送っていただけるようさりげない支援を行っています。特別なりハビリは行っていませんが、日常生活全般をリハビリと捉えて、入居者の方が中心になれるようなサポートを心掛けています。お一人おひとりの生活歴を理解し、個別性に富んだケアから、その人その人が出来ることを見つけ継続し、役割を持って頂くことで認知症状を緩やかなものにし、安心して暮らして頂けるよう支援しています。また、ご家族様との繋がりを大切に、イベントや外出などに参加して頂けるよう年間を通じて企画、プロブにて日々のご様子を発信しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の基本理念に加えて、それを達成させるための目標を職員全員で考え、朝礼の時に唱和している。「その人らしく、安心して暮らして頂けるように、私達職員は、笑顔で思いやりの心を持って接していきます。」等々を唱和し、利用者の当たり前の生活を支援している。コロナで面会できない時に、事業所は利用者の様子を家族にブログで細かに日頃の様子を伝えている。献立メニューは、利用者や相談しながら職員が考えて作っている。近隣のスーパーへ利用者と共に買い物に出掛け、共に食事作りをしている。見事な包丁さばきを目の当たりにした。見守りの失敗で利用者との信頼関係を取り戻すのに苦労した事例を、大阪老人福祉施設研究会で発表し、優秀賞を獲て近畿大会へ進出、全国大会まで出られた素晴らしい活動実績がある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所の理念をつくり、管理者と職員は毎日の朝礼にて唱和し、共有している。	事業所の基本理念に加えて、それを達成させるための目標を職員全員で考え、朝礼の時に唱和している。「その人らしく、安心して暮らして頂けるように、私達職員は、笑顔で思いやりの心を持って接していきます。」等々を唱和し、利用者の当たり前の生活を支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	利用者が地域と繋がりがりながら暮らし続けられるよう、日々の買い物や外出を定期的に行って来た。また自治会に参加し、職員は夜回り等の活動に協力している。	近くのスーパーやコンビニへ買い物に出掛けた際は、近隣の方々と挨拶を交わし、地域の一人として交流をしている。また、法人で開催している納涼祭や夏祭り文化祭などに利用者の家族や近隣の方々に参加していただき地域交流の充実を図っている。夏や年末に行っている自治会主催の夜警に、職員が参加して地域貢献にも協力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人の理解や支援の方法について、地域に暮らすご家族やデイサービスを利用するご家族に伝えている。また地域に留まらず、研究大会に参加し、令和元年10月には全国大会にて、その成果を発表している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、テキストやスライド写真を活用しながら、状況や取り組みについて、定期的に報告している。また質疑応答の時間を設け、ご家族や地域の方々の質問、ご意見を伺い、サービス向上に努めている。	利用者家族、市担当職員、民生委員、介護相談員、事業所職員、等が参加して隔月に開催している。会議では報告や情報交換だけに止まらず、約半数の家族が参加して活発な意見が交わされ、そこでの意見をサービスの向上に活かしている。しかし、利用者の参加がない。	家族や第三者の意見だけに頼らず、利用者本人の意見も聞き出し、運営推進会議をより実のあるものにする事を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者や地域包括支援センターの職員と連絡を取り合い、協力関係を築く努力をしている。	市役所担当職員とは、運営推進会議やグループホーム連絡会のまとめを提出したり、事業所の実情やケアについて都度、報告したり相談をしたりして協力関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束適正化対策委員会による勉強会を行い、指針を作成し全ての職員が正しい知識を身に付け実践出来るよう取り組んでいる。また法人内外への研修に参加し、知識の向上に努めている。	身体拘束適正化対策委員会を、2ヶ月に1回定期的に行い、指針も用意されている。基本的な考え方は、厚生労働省の「身体拘束ゼロへの手引き」による。研修会も年に2回計画し、安全を確保しながら自由な暮らしを支える工夫について、法人内外の研修を通して学習している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は法人内外の研修に参加し、虐待が見過ごされる事の無いように、注意し防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に制度を利用されている入居者様や法人内外の研修を通じて、それらを活用できるよう見識を蓄えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、ご家族様に説明を行い理解、納得を図っている。改定や解約などは、運営推進会議などで、その都度説明し質疑応答の時間を設け、理解をして頂ける様取り組んでいる。また、個々の不安や疑問なども個別に対応、説明し不安を解消して頂ける様務めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の面会や行事、運営推進会議などを通じて、入居者様、ご家族様の思いを話せる環境や雰囲気作りを行っている。頂いたご意見に対し真摯に受け止め、改善に向けての経過、結果を報告している。	利用者とは日々の会話を通して、利用者家族とは運営推進会議や来訪の際、また、アンケート(全員提出)を通して、意見交換できる機会を設けている。出された意見は、バーベキュー食材の不適について、転倒事故の利用者の見守りにおけるコミュニケーション不足についてなどがあり、可能な限り運営に反映させるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員室での会話やユニット会議、全体会議などを通じて、個々の意見や提案に耳を傾け、改善を図っている。	ユニット会議を月に1度、全体会議を2カ月に1度以上行っている。ヒヤリハットの中から転倒防止に関する意見、日頃の利用者との会話の中から「何か出来ることがあれば言って欲しい」の要望に対しては、ケアプランに家事手伝いを加えるなど、職員の意見を聞き反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員と定期的に面談する機会を持ち、また各フロアのリーダーからも情報を集め、一人一人の目標や思いに耳を傾け、職員の個人目標の設定やその達成に向けての支援に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々の業務を確認し、適宜指導を行っている。また法人内外での研修に積極的に参加してもらい、現場にフィードバックする事により、働きながら力量を高められるようサポートしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2カ月に一回の地域密着事業所と現状報告を行い、知り得た情報を基にサービスの向上に反映している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様、ご家族様との面談では出来る限り話しやすい雰囲気や話題を選び、思いや困っていることを自然に話して頂けるような関係づくりを心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談から、ご家族様との関係づくりに努めている。入居後も日々のご様子をお伝えし、不安感を与えない様にご理解いただけるまで説明している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時に、ご本人とご家族様から不安と、心配事や思いを伺いサービスに反映している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	信頼関係を築くため、ご本人と積極的に関わっている。また、他入居者様と円滑に人間関係が築けるように職員が間に入って見守っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族様の面会時間を大切にしている。一緒にフロアで過ごされたり、居室でのご家族だけの時間をとって頂けるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の生活歴やバックグラウンドを知り、家族や親戚は勿論、馴染みのあったお友達とも交流を絶やさないでいられるように受け入れ、支援している。	利用者本人と地域社会との継続を維持していくために、友人や馴染みの場所喫茶店や美容院、買い物などへの訪問を、家族の協力を得ながら支援している。利用者の生活歴などを通じて本人にとって、いい時代のお話を良く知り、得意の分野を広げてあげる努力をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係を把握し、テーブル配置やいすの位置など環境面を考え、良好な関係を築けるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約を終了しても、気軽に来苑していただける雰囲気を作り、退所後も近況報告の電話をいただいたり訪問された際、ご家族の不安を伺っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人やご家族に嗜好や生活習慣、意向などを伺い、その人らしい暮らしができるように努めている。意思疎通が困難となられた場合、バックグラウンドを再確認し、生活を観察しその人が求めている事、必要なことを常に把握できるように職員間で話し合っている。	利用者との意思の疎通が困難になった時のために、入居時に生活歴や利用者の得意とすること趣味などを、利用者家族にシートに記入して頂いている。それを全職員が把握し、普段の介護の中で、またケアプラン作成にも活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活の中で、昔の思い出や体験を聞く機会を持ち、生活歴やご家族様の話も伺い、在宅からサービス利用の経過について把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で関わりを持ち、記録し申し送る中で、ご本人の心身状態やADLなどについて現状を把握し、職員間で共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	生活の中でご本人の希望や意向の把握に努め、ご家族様や医療関係者、福祉用具の専門員などと話し合いを行いながら、現状に即した介護計画の作成に努めている。	介護計画の期間は、6ヵ月としている。本人や家族の希望があった時、支援経過やモニタリングにより変化が見られた時には、担当者会議で話し合いを行い、臨機応変に見直しを行うようにしている。本人や家族の希望をよく聞き、ケアプランに取り入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や認知症状の変化、ご本人の云われた言葉などを個別に記録に残し、職員間で共有し、ケアや介護計画の改善に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族様の状況や、その時々ニーズ、要望に対して前向きに検討を行い、新しいアイデアを考え、柔軟に対応、サービスの提供に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアやスーパーでの買い物、理容店でのカットなど、ご本人が心身の力を発揮しながら、生活を楽しんでもらえるように支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診はご本人とご家族様の納得を得て、定期的に内科と精神科のドクターに往診に来てもらっている。またその疾患や生活歴に応じて、ご家族様の協力を得ながら、地域の医院に通院してもらっている。	入居契約時に、利用者本人や家族等の希望するかかりつけ医を決めている。耳鼻科、眼科医等従来からのかかりつけ医については、家族が事業所での利用者の様子等記載したものを持参同行し、報告を家族から受けることになっている。事業所との契約医療機関とも連携を保つように配慮されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職として、日々の関わりの中で得た情報や気づきを医療機関に伝え相談し、個々の利用者が適切な受診や処置を受けられるように支援に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には介護サマリーなどを用いて、情報伝達を行っている。また退院時には担当医や看護師、相談員と調整し、早期退院出来るように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に備えて、特養の事前申し込みを促している。状態が重篤化した場合は改めて説明し、話し合いの場を持ち、事業所で出来ることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の病院などとも連携しながら支援に努めている。将来的には看取りも視野に入れた整備を行っていく。	重度化した場合や終末期のむかえ方については、利用当初に事業所として出来得る事、出来ない事を事業所の指針を通して家族等に充分説明している。重度化した場合、地域の医療機関との連携も、家族等と話し合い共通理解を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内外の研修や日々の業務を通じて、個々の職員が急変時や事故発生時の対応が出来るよう、日々努力している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の消防訓練と自主訓練2回を実施している。災害時には併設の特養が地域の避難場所の役割を担っている。非常時の備蓄食の整備をしている。	年に2回の消防訓練の他に、夜間対応の自主訓練を2回している。近隣住民がいないため、その役割を併設している特別養護老人ホームの宿直者が担っている。事業所の夜勤者と協働で、夜間対応の訓練を年に2回行っている。消防署のレスキュー隊も、5分で到着する体制になっている。備蓄備品も整っている、家具の転倒防止対策も出来ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の個々の性格や状態を把握し、尊厳の念をもって、日々のケアや声掛けを行っている。	利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねることのないよう、さりげなく利用者との視線を合わせてのボディランゲージをともなった言葉掛けや、介助が見られる。個人ファイルは、職員室の書庫に厳重に施錠して保管されている。研修会もプライバシーの保護、接遇などについて、年に2回実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症状を見ながら可能な限り選択ができるよう、声掛けの工夫や表情を観察している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の思いに寄り添い、各々のペースに合わせた支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容院への外出や訪問美容を利用。衣類の汚れはすぐに更衣し、日々の身だしなみに留意している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立には旬の食材を意識し、職員と一緒に安全に配慮した食事作りを行っている。食事は職員も一緒に同じものを頂き、自宅の食卓を意識している。	献立メニューは、利用者と相談しながら職員が考えて作っている。近隣のスーパーへ利用者と共に行き買い物に出掛け、共に食事作りをしている。見事な包丁さばきを目の当たりにした。法人の畑には、季節の野菜(ナス、白菜、キュウリ、トマトなど)や果物(ブルーベリー、びわ、サクランボなど)が植えられ、収穫も共にして食卓に彩を添えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量や水分摂取量を記録に残し、個々の嗜好に合った飲み物や嚥下状態に合わせた物を提供し、一日の摂取量や栄養バランスに配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の状態に合わせた口腔ケアを行い、週に一度、歯科ドクターや歯科衛生士に診てもらいながら、口腔ケアに努めている。職員もケアの指導を受け実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎回の排泄を記録に残し、個々の排泄リズムの把握に努めることにより、不要な失禁やパットの消費を減らす努力をしている。夜間は安眠を重視し排泄用具の工夫をしている。	利用者の排泄パターンを一覧表にした上で、1人ひとりのサインを職員は把握し、さりげなくトイレ誘導をしている。リハビリパンツを、日中はパット無しで過ごすように排泄支援をするなど、それぞれについて改善方法を考え、一人ひとりに合った支援がされている。夜間は1時間毎に巡回し、安全確認をしながら安眠を重視した支援がされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が様々な疾患やBPSDに繋がる要因であると理解し、嗜好にあった飲み物や運動の機会を提供し、便秘にならない様工夫している。また医療職にも適宜相談を行い、下剤の調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の入居者様に入浴を楽しんで頂く為に、ご本人の要望を聞きながら、入浴を楽しんで貰っている。入浴を断られる際は無理強いせず、職員や時間帯を変えて対応している。身体介護の高い方は、二人介助で安心安全な介助を意識し行っている。	今までの生活習慣を大切に、当たり前の暮らしを支援している。週に2回以上の入浴で、曜日、時間は全く決められていない。浴室の入口には、温泉を連想させる暖簾が掛けられている。季節の湯、ゆず湯や入浴剤も用意され、入浴を楽しみなものにする工夫がされている。入浴拒否者には、無理強いせずに職員を替えたり、時間や日を改めたりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を知り、その入居者様の心身の状態に合わせて、就寝介助を行っている。また、基本的には、日中の意欲的な活動を通じて、夜間の安眠へ繋げる支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の職員が薬への知識を増やし、処方された薬の内容の把握に努めている。また内科や精神科ドクター、医療職に適宜にアドバイスをもらいながら、服薬支援と入居者様の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の嗜好や性格、生活歴を把握し、ご本人が意欲的になれる活動の支援に努めている。またフロア内の人間関係に配慮し、気持ちよく過ごして頂けるよう、席の配置など工夫している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い時期には屋外への散歩や近隣への買い物などの機会を提供している。またご家族様に協力を得て、外出や遠足の機会を設けることにより、楽しみを提供している。	利用者一人ひとりのその日の希望にそって、法人の広い敷地内を散歩したり、近くのスーパーへ買い物に出掛けたりしている。時にはボランティアや家族の協力を得て、寺が池公園で紅葉狩りをしたり、花の文化園で季節の花の鑑賞、くろまるの郷での食事、堺市役所の展望台など豊富な外出支援がある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が難しくなっている為、行っていない。買い物の際、支払いやお釣りを受け取る支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族への電話の希望があれば行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日々、清掃や整理整頓を行い、不快や混乱を招くことの無いよう、環境整備に努めている。また、季節に応じた飾りや書、写真を掲示するなどして、居心地よく暮らしていただけるよう工夫している。	明るいダイニングルーム兼リビングルームでは、利用者それぞれが自分の時間を楽しんでいる。新聞を読んでいる人、仲間同士が話し合っている人がいる。壁には利用者と職員とで作成した紫陽花の花が展示されている。事業所から出ですぐの処に、くつろげるテーブルがあり、花や野菜が植えられている。居心地よく過ごせる居場所がそこかしこにある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各入居者様に居室があり、お一人になりたい時には日中であっても居室で過ごしてもらう機会を提供している。またリビングにおいてもソファの配置に工夫を行い、思い思いに過ごしていただけるよう環境づくりを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の入居する以前の生活を尊重し、馴染みの家具や使用されていた物品など可能な範囲で持ってきていただき、その人らしい居室や生活が送れるよう支援している。	広くゆったりした居室で、クローゼットと洗面台がついている。畳の部屋も三分の一あり、利用者もそれぞれ家族と相談しながら、馴染みの家具や家族の写真、自分の手作りの作品等を持ち込み、自由に配置している。部屋の表札が、担当職員と共に手作りのものが掛けられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビングやトイレ、浴室などの環境において、個々の入居者様が安心して安全に過ごしてもらえるよう名札や手すりなどを設置し、廊下には不要な物を置かないなど、環境面の配慮を行っている。		